

居間。今日学校でショックなことがあった郁美がひとりで座ってる。
スマホが鳴って通話に出ると、画面にいるのは同級生の真子。

真子「あ、郁美？」

郁美「うん」

真子「さっきはごめんね！」

郁美「・・・」

真子「私、郁美も吉本のこと好きだなんて知らなかったからさ。

郁美、そういうこと私に教えてくれないからー」

郁美「言ったよ。 そのとき真子は勝村のことが好きだって言ってたじゃん。

なんで吉本に告白したの？」

真子「(言葉に詰まる)・・・違うよ。前から吉本が好きだったよ」

郁美「じゃあつきあうのね？」

真子「え？」

郁美「吉本とつきあうのね？」

真子「・・・つきあわないよ」

郁美「え？」

真子「郁美との友情の方が大事だから、私、吉本とはつきあわない！」

言葉に詰まる郁美。真子は真剣な顔で郁美を見つめている。

郁美「だったらさあ、真子」

真子「うん」

郁美「だったら好きでもない人に告白とか、やめなよ」

言葉に詰まる真子。郁美は真剣な顔で真子を見つめている。

真子「うん、ごめん。もうしない」

郁美「(呆れる)・・・まあいいや。私も吉本が喜んでるの見て冷めたから。

じゃあまた明日、学校でね」

真子「うん、じゃあね。ごめんね」

郁美「うん、じゃあねー。(通話を切る)」

